

おっちゃんだより

ケンちゃんのこと

高速道路の下で野宿する50代の男性と10年前から知り合いました。パンや飲み物を差し上げた時に目をそらすしぐさをされるので、「人見知り」なのかな？とっていました。5年前から「ケンちゃん」という名前が分かり、それから「ケンちゃんどう？」

「ケンちゃん何が欲しい？」と聞いてもにっこり笑うだけで返事はありませんでした。

昨年のある日コンビニエンスストアの前にケンちゃんの台車が置いてあり、近くを探しましたが、どこにもおられません。もしかして……と、思ってコンビニの中へ入るとケ



ンちゃんがカップラーメンをじっと見ていました。「ケンちゃんほしいの？」と聞くと「うん」とうなずかれました。「分かった、私が買うわ。後はなにかほしい物はない？」と聞くと店の中を嬉しそうにいろいろ探し始めました。まるでお小遣いをもらった時の小学生のようで（失礼ですが）とても可愛かったです。カップ麺と飲み物を選んでレジに行きました。私が支払い、ケンちゃんはレジの横でカップ麺を袋から出し、お湯を入れて、箸をもらっていました。知的障害があると思っていましたが「こんなこともできるのだ！」と驚きでした。それからは毎月、そこで待ち合わせして、コンビニで買い物をしました。ちゃんと日にちと時間を覚えていて、待って居てくれます。

ケンちゃんは髪が伸びてしまい、ある日「髪の毛切ろうか？」と尋ねると「うん」とうなずきました。日を決めて、公園でケンちゃんの散髪をし、着替えもしました。

これからもこの関係は続けれると思うので、少しずつケンちゃんの生い立ちや考えている事を聞いて行こうと思います。

追悼集会 2024

8月15日に一年間で亡くなった人の追悼集会を行いました。

私たちが知りえた中で17名の方が亡くなりました、その中で5名の方が路上で亡くなるという、先進国日本では考えられない事実です。十分に支援出来なかった。

私たちも心折れそうですが、その悔しさをバネに次の活動に力を入れたいと思います。』



緑政土木局と協働

名古屋市には緑政土木局があり、公園を適正に管理する為に昔は野宿者支援団体と緑政土木局は敵対関係でした。しかし、ここ5年の間、私たち野宿者を支援する会は何か問題があると緑政土木局に出向いてお願いしたり、お願いされたり、年末年始の越冬期間中は毎日情報交換をして仲良くし始めました。何かあると緑政から連絡が来て、私たちが困っていると緑政に電話をする関係が続きました。

5月のある日、緑政土木局主査から電話がありました。「〇〇公園で具合が悪くなった竹田さん（仮名）が居た

ので本人の了承を得て、救急車を呼びました。行先は××病院で、区の巡回相談委員さんにも連絡しました。」という内容でした。お礼を言ってから「本当に関係性が良くなった」事を実感しました。これは緑政だけではなく、区の巡回相談員さんとも日々連携していることを感じます。

現在名古屋では「行政だから」や「民間だから」という事もなくそれぞれの特長を生かし、野宿者を支援していける協力体制に感謝します。

これも、相手を非難せず「どうしたらいいか、教えてください！」と頭を下げる事も大事ななと思っています。